

各位

初秋の候、皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

モーリン・アンド・マイク・マンズフィールド財団より日本語ニュースレターを配信いたします。

今後とも財団の活動にご理解、ご協力を賜わりたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

モーリン・アンド・マイク・マンズフィールド財団東京事務所

モーリン・アンド・マイク・マンズフィールド財団ニュースレター

2020年9月15日

財団主催ウェビナー「75年の平和とパートナーシップ：日米関係 1945年～2020年」開催

マンズフィールド財団は、米国時間8月17日正午(日本時間18日早朝)にウェビナー「75年の平和とパートナーシップ：日米関係 1945年～2020年」を主催した。パネリストには元駐日米国臨時大使を務め、現マンズフィールド財団理事であるラスト・M・デミング大使、テキサス大学リオグランデバリー校の歴史准教授であるロバート・ホップンス博士、オーバーリン大学東アジア研究所ディレクターで東アジア史・東アジア学准教授のエマー・オドワイヤー博士を迎え、戦後75年にわたり平和とパートナーシップを維持してきた日米関係を振り返った。なお、ホップンス博士とオドワイヤー博士は、マンズフィールド財団が実施する日米次世代パブリック・インテレクチュアル・ネットワーク・プログラムの参加者。

オンライン・パネルディスカッション「なぜ日本は米中対立を懸念するのか」を実施

米国時間8月25日正午(日本時間26日早朝)に、[キャピトルヒル・アジア政策対話プログラム](#)の一環として、「なぜ日本は米中対立を懸念するのか(Why Japan Matters in the Rising U.S.-China Rivalry)」の議題でオンライン・パネルディスカッションを実施した。ランド研究所のジェフリー・ホーナン研究員、ダートマス・カレッジ政治学部のジェニファー・リンド准教授がパネリストとして登壇し、マンズフィールド財団フランク・ジャヌージ理事長がモデレーターを務めた。

日米次世代パブリック・インテレクチュアル・ネットワークプログラム：オンライン・セミナーを実施

米国時間8月26日夕(日本時間27日朝)、[日米次世代パブリック・インテレクチュアル・ネットワークプログラム](#)第5期参加者オンライン・セミナーを実施した。本来であれば、今年6月に日本へ

のスタディ・トリップが行われるはずであったが、COVID-19の影響を受け一年の延期を余儀なくされているところ、参加者たちはオンラインながらも久しぶりに一堂に会し、さらなる交流を深めた。

[第5期参加者のプロフィール](#)

CFM オンライン会合にて元 FDA 長官のマクレラン医学博士が講義

米国時間 8 月 27 日正午(日本時間 28 日早朝)、元米国食品医薬品局(FDA)長官のマーク・マクレラン医学博士を講師に招きし、[コーポレート・フレンズ・オブ・マンスフィールド \(CFM\)](#)のオンライン会合を開催した。マクレラン博士は、過去に FDA 長官を務めた他、ジョージ・W・ブッシュ政権下で大統領経済諮問委員会の委員やホワイトハウスの医療政策上級ディレクターなども務めた。現在はデューク大学マーゴリス医療政策センターのディレクターかつビジネス・医療・健康政策分野の教授であり、医師兼エコノミストとして、米国におけるパンデミックとの闘いや安全な社会活動の再開に向けた国家レベルでの取り組みの中心的存在として活躍している。なお、講義資料(パワーポイント)については以下より覧可。

[The COVID-19 OUTLOOK by Mark McClellan, MD, PhD, Director, Duke-Margolis Center for Health Policy \(2020.8.27\)](#)

第9回日米宇宙フォーラム(USJSF)をオンラインで開催

米国時間 8 月 27 日夕(日本時間 28 日朝)、マンスフィールド財団は、9 回目となる日米宇宙フォーラム(USJSF)のオンライン会合を実施した。[日米宇宙フォーラム](#)とは、米国と日本の宇宙政策専門家と当局者により組織されている常任委員会で、議長は、マンスフィールド財団フランク・ジャヌージ理事長、ワシントン大学ヘンリー・M・ジャクソン国際学部のサーディア・ベッカネン教授、慶応義塾大学大学院法務研究科の青木節子教授が共同で務めている。年 2 回の開催で、9 目にあたる今回は COVID-19 の影響でオンラインでの開催となったものの、宇宙ゴミや宇宙における安全保障の重要性などについて建設的な話し合いがもたれた。

日米宇宙フォーラムは、宇宙政策とガバナンスに関する協調のためのより強固な基盤作りに貢献するため、宇宙技術、政策及び戦略方向性の分野における 2 国間協力の課題についての政策提言を行うことを目指し、2016 年 7 月に「[日米宇宙フォーラム:『宇宙に関する包括的日米対話』への提言](#)」を発行している。

<ご案内>

米エアロスペース社の宇宙政策ショー(The Space Policy Show)のご案内～弊財団フランク・ジャヌージ理事長がスピーカーとして登壇します

米国時間 9 月 17 日午後 1 時～2 時(日本時間 18 日午前 2 時～3 時)に米エアロスペース社の宇宙政策・戦略センターによって開催される The Space Policy Show: Japan's New Space Policy: Its Intersection with Missile & Missile Defense(宇宙政策ショー:日本の新宇宙政策とミサイル及びミサイル防衛活動との交点)に、弊財団フランク・ジャヌージ理事長が登壇します。ご関心あるかたはご登録の上、ご参加ください。なお、弊財団のイベントではありませんので、詳細・お申込みについては米エアロスペース社の[ウェブサイト](#)を参照ください。

マンズフィールド・フェロースHIP・プログラム 日本在住同窓生近況報告

English follows Japanese.

●ジェイ・ビックス(Jay Biggs)氏、第13期フェロー(2007年-2009年)

(駐大阪・神戸米国総領事館 首席商務領事)



現在、駐大阪・神戸米国総領事館で首席商務領事を務めています。私は、マンズフィールド・フェロースHIP・プログラム第13期生(2007年-2009年)として、プログラムから多くのことを学びました。例えば、即戦力になったのは、日本特有の文化・考え方です。より重要だったことは、米国政府職員や企業の代表者らが受け入れ国政府のカウンターパートに与える影響を観察する貴重な機会を持てたことです。これは私のキャリアを通して有益な経験となっています。

当時。私は米商務省でアジア向け医療機器の規制に関する問題を担当していましたが、商務省の外国貿易部への異動する準備として研修が始まりました。配属先は、経済産業省、国会議員事務所、厚生労働省、内閣府でした。短い期間でしたが、厚労省に配属になった時には、医療機器と医薬品払い戻しの政策について詳しい手引きを執筆することができました。

マンズフィールド・フェロースHIPの終了後、私は中国に配属されることになり、2018年によく現在のポジションで日本に戻ってくることができました。マンズフィールド・フェロースHIPでの経験からたくさんの教訓を学び、それは私のキャリアに大きな影響を与えてきました。例えば、経産省や厚労省への配属では、関係者に会って話すことの重要性を間近で経験しました。つまり、業界

団体や外国政府の代表者らと時間をかけて非公式な関係を築き、どのようにそれを基に意思決定に影響を与えることができるのかということを見てきました。業界団体の代表者や外国大使館職員らの中には経産省や厚労省のカウンターパートと堅固な関係を築くことに時間と労力を注ぐ人もおり、そのような努力がいかに重要かということを確認しました。これは、自分が赴任する外国政府のカウンターパートとの堅固な関係を築く時に心に留めてきた学びといえます。

●**Mr. Jay Biggs, Mansfield Fellowship Program 13th Fellow (2007–2009)**

(Principal Commercial Officer, the U.S. Consulate General Osaka-Kobe)

I am currently the Principal Commercial Officer in the U.S. Consulate General Osaka-Kobe. I was in the 13th Mansfield Fellows class from 2007–2008. I learned a lot from the program, some of it Japan specific and readily usable. More importantly I had the unique chance to observe how US government officials and industry representatives impact their host government counterparts. These are the lessons I have been able to utilize throughout my career.

At the time, I was working in the US Department of Commerce covering medical device regulatory issues for Asia. I started my placement just as I was getting ready to transition to the Department of Commerce's Foreign Commercial Service.

My placements were at METI, an LDP Diet member's office, MHLW and the Cabinet Office. In the short term, my placement at MHLW was most valuable for me, as I was able to write an in-depth guide to medical device and pharmaceutical reimbursement policy.

Unfortunately, following my Mansfield's experience, my career took me to China for an extended period of time, and it wasn't until 2018 that I returned to Japan in my current position. That said, I took a lot of lessons from my Mansfield experience which had profound impact on my career. In my placements at METI and MHLW, I saw firsthand the importance of showing up. By that I mean I saw how industry association representatives and foreign government representatives were able to impact decision making based upon the informal relationships that they cultivated over time. I saw some industry association reps and foreign embassy staff who put the time and energy into building solid relationships with their counterparts in METI and MHLW, and how valuable that effort was. This is a lesson that I have kept in mind as I have worked to build solid relationships with my partners in foreign governments where I have served.

●**パトリック・ティバルズ (Patrick Tibbals) 氏、第 20 期フェロー(2015 年–2016 年)**

(在日米国大使館 相互防衛援助室 航空及びサイバープログラムディレクター)



マンズフィールド・フェローシップ第 20 期生としての研修後、今夏で 4 年経ちました。研修中は、3 つの省庁と株式会社日立システムズ、平井卓也衆議院議員事務所で防衛とサイバーセキュリティ協力について学びました。フェローシップ後に、米国空軍オフィサーとしてアジア太平洋地域に駐留して、研修中に学んだことに関わる業務に就けたことは幸運でした。

2016 年、フェローシップが終わるとすぐに、韓国の烏山(オサン)空軍基地に異動となり、基地のコミュニケーション戦隊を担当する運営ディレクターに任命されました。北朝鮮の国境から 80 キロもない場所で、275 人からなるアメリカ人と韓国人のこのチームは、当該地域でここ数十年の中で最も緊張感が高まっている時期に、空軍の最も先進的な戦闘航空団のコミュニケーションとサイバーセキュリティの責任を担っていました。我々は、基地において、共通のミッションを持つ韓国空軍のパートナーと密接に働きました。韓国は日本とは明らかに違った文化を持っていますが、私がマンズフィールド・フェローとして学んだ知的スキルは韓国でも大変有効なものでした。我々は、初めての米韓空軍コミュニケーション軍事演習を立ち上げることに成功し、共有する指令ネットワークにおける主要なサイバーセキュリティ強化プロジェクトを完遂させました。

2018 年、幸運にも私は再び日本に戻ってくることとなり、在日米国大使館の相互防衛援助室の航空及びサイバープログラムのディレクターに任命されました。そして私は今、まさにフェローとして研修中に学んだことに従事しており、研修時に配属されていた省庁の同僚と一緒に働く時もあります！私は、日米同盟のセキュリティの状態について安全保障協力を通じ改善を尽くすチームに貢献し、またマンズフィールド・フェロー時代に得られたユニークな経験と教訓を数えきれないくらい多くの場面で活用してきました。とりわけ、米国防省と日本の防衛省の間を取り持ち、両者の共通運用性を最大限に引き出すことに貢献しています。さらに、日本についての省庁間の連携プロセスについて私が得た理解は、サイバースペースにおける共通の目標に向けて協力する我々チームにとってより効率的な方法を見出すことに役立ってきました。

恐らく米国大使館での刺激的な仕事以上に、日本に戻ってから、私と家族は、マンズフィールド・フェロー時代に金沢と東京で築いた一生ものの友情を再び温めることができたことを大変喜ばしく思っています。フェローシップ終了後、職業的には非常に多くの成功を得てきましたが、こうした個人的な友情関係はマンズフィールド・フェローシップ・プログラムにとって末永く続く成果となるでしょう。

● **Mr. Patrick Tibbals Mansfield Fellowship Program 20th Fellow (2015—2016)**

(Director for Air and Cyber Programs, the Mutual Defense Assistance Office at the U.S. Embassy Tokyo)

This past summer marked four years since completing my Mansfield Fellowship with the 20th class. During that year I studied Defense and Cyber cooperation in three Japanese Ministries, Hitachi Systems corporation, and the Office of Lower House Representative HIRAI Takuya. Since graduation I've been fortunate to work on these issues right here in the Asia Pacific region as a U.S. Air Force officer.

Immediately following my Fellowship, I transferred to Osan Air Base, South Korea in 2016 as the Director of Operations for the base's communications squadron. Less than 80 kilometers from the North Korean border, this 275-member team of U.S. and Korean employees was responsible for communications and cybersecurity for the Air Force's most forward fighter wing during one of the region's most high-tension periods in decades. We worked close with our South Korean Air Force partners on the base who shared our combined mission. Though Korea has a very distinct culture from Japan, I found that the intercultural skills that I learned during my Mansfield year were quite valuable. We succeeded in establishing a first-time bilateral U.S.-South Korea Air Force communications exercise, and completed a major cybersecurity strengthening project on our shared command network.

In 2018 I was fortunate to return to Japan and joined the Mutual Defense Assistance Office at the U.S. Embassy Tokyo as a Director for Air and Cyber Programs. I now work directly on the exact issues I studied during my fellowship, and in some cases right alongside the same colleagues from my year in the program! I contribute to a team dedicated to improving our alliance's security posture through Security Cooperation, and I've applied the unique experiences and lessons from my Mansfield year on countless occasions. Notably, I am able to better link the U.S. Department of Defense with our Japanese Ministry of Defense partners to ensure maximum interoperability between our forces. Further, the understanding I built of Japan's interagency coordination processes for cybersecurity has helped find more efficient ways for our teams to cooperate towards our shared goals in cyberspace.

Perhaps even more than the exciting work at the U.S. Embassy, since our return my family and I have been thrilled to rekindle the friendships we made during our life-changing year with the Mansfield Foundation both in Kanazawa and Tokyo. Though I've achieved tremendous professional success since graduating, these personal friendships will always be the lasting impact of the Mansfield Fellowship.

第 25 期フェローは、例年であれば今年 7 月に訪日し、日本の省庁において研修を受ける予定でしたが、新型コロナウイルス感染症による渡航制限などの影響のため、残念ながら、現在のところ派遣は来年以降の見込みとなっています。来年の派遣を楽しみに、今月から、第 25 期フェローをご紹介します。

English follows Japanese.

● マーラ・ボークソン (Marla Borkson)、第 25 期フェロー (2021 年以降派遣予定)

(米国財務省 内国歳入庁 主席法律顧問官事務所 税務担当弁護士)



現在、米国財務省内国歳入庁 (IRS) 主席法律顧問官事務所のパススルー^{注1}、及び特別産業課に税務担当弁護士として勤務しています。職務は主に所得課税の範疇で、米国のパートナーシップ (共同) 企業や S コーポレーション (S 法人)、それらのオーナーの税制措置、国際課税、信託財産・動産の所得課税について担当しています。私の勤務する内国歳入庁では、連邦議会で可決された法令を解釈し、さらに私の部署で、その中のパートナーシップ企業特有の箇所について、法規を通して履行しており、私はこうした法規の起案を担当しています。複雑な税のトピックについて他の弁護士に講義したり、同様の事案を取り扱う米国内の他の部署と協働したりすることもあります。

私のマンスフィールド・フェローシップ・プログラムでの第一の目標は、日本の税務当局がパススルー事業体をどのように取り扱っているか、具体的には、会計監査制度、事業体による課税方法の選択機会^{注2}、法人組織のような事業体と比べた場合の課税上の地位などへの理解を深めることです。また、日本の税務当局がどのように新しい成文法を制定し法令文言を決めるのか、米国の減税・雇用法 (TCJA、2017 年米国税制改革法) のパートナーシップ条項について日本の税務当局がどのように解釈しているのかについて学びたいと思っています。その一方で、日本の税務当局関係者が米国のパートナーシップに関する税法のニュアンス、特に事業体による課税方法の選択の規則や、パートナーシップ企業やパススルー企業に適用される減税・雇用法 (TCJA) 関連規則への理解の手助けをしたり、米国のパートナーシップやパススルー関連法についての研修をサポートできればと思っています。この大変貴重な機会を楽しみに、そして早く日本に行けることを願っています。

注 1) パススルー課税とは、企業体には課税されずその構成員の所得として課税する税制度。事業有限責任事業組合や投資ファンド等の利益について課税せずに、その利益の配分を受けた構成員の所得に対して課税される。

注 2) 企業体そのものを課税主体とする事業体課税か、それとも構成員課税を採るかの選択。米国では、一定の事業体について連邦税法上の取扱いを納税者が自ら選択することが認められている。この規則は、希望する税務上の取扱いの欄をチェックすることから、チェック・ザ・ボックス (CTB) 規則と呼ばれる。

● **Ms. Marla Borkson, Mansfield Fellowship Program 25th Fellow (to be deployed in 2021)**

(General Attorney (Tax), IRS Office of Chief Counsel, Department of Treasury)

In my current position as a tax attorney with the IRS Office of Chief Counsel, Passthroughs and Special Industries Division, I work on a range of U.S. income taxation issues including those involving the tax treatment of partnerships, S corporations, and their owners; international taxation; and income taxation of trusts and estates. My agency interprets statutes passed by Congress and my division implements the partnership-specific portions through regulations. I work on drafting these regulations. I lecture on complex tax topics to attorneys and work with other divisions in the U.S. where our subject matters intersect.

My primary objective during the Mansfield Fellowship Program is to develop an understanding of the ways in which Japanese Tax Authorities deal with passthrough entities including their auditing regimes, entity classification opportunities, and different tax status from other entities such as corporations. I also plan to learn how the Japanese Tax Authorities create new statutory law and regulatory language and how U.S. Tax Cuts and Jobs Act (TCJA) partnership provisions are being interpreted by Japanese Tax Authorities. In turn, I hope to assist Japanese counterparts in understanding the nuances of U.S. partnership tax law, especially the U.S. entity classification regulations and the regulations implementing TCJA that apply to partnerships and passthrough entities. I plan to also assist Japanese colleagues with trainings on U.S. partnership and passthrough law topics. I look forward to this incredible opportunity and hope to be in Japan soon.



THE MAUREEN AND
MIKE MANSFIELD FOUNDATION

Connecting People and Ideas to Advance Mutual Interests in U.S.-Asia Relations



[Facebook](#)

 [Twitter](#)

 [Email](#)

 [Support](#)